

「ラグビーの魅力」

123期 赤塚駿一 保護者

赤塚 佳代

「こどもにはラグビーはやらせたくない」と、思う人が多いようです。しかし、私はやめさせたいと思いませんし息子も出来る環境にある 限りやめないでしょう。ラグビーに対して、マイナスイメージがないのです。

始めたのはイギリスで中学に入学した、11歳の時でした。「ラグビー部」というものはなく、授業で全員がラグビーをやります。息子の学校は伝統のある高校で、北野高校そっくりのポリシーでした。体育の授業は大変厳しく、ラグビーの日は授業時間に近くのラグビー場まで走って移動して、ひたすら試合をします。1クラス30人の男子校なので、何クラス合同の授業でも誰ひとり余る事なく、休むこともなく試合が出来るわけです。またそれだけコートがたくさんありました。確か全て芝生で6面だったと思います。体力的にはきつかったはずですが、試合は本当に楽しいと言っていました。同じ年齢だけで対戦し、芝生のグラウンドなので痛い思いをしないで、楽しい部分だけを体験しながらラグビーを始めることができ、その中で自然に体力がついて来たことも良かったのでしょう。対外試合は学年全体で上からA、B、C・・・と、チームを作って行き、メンバーは試合の前に発表されます。試合はたいていABチームぐらいでやるので息子はなかなか呼ばれませんが、ある日Cチームとして招集されました。掲示板に自分の名前が載って「何月何日来るように」と、言われるとすごくうれしかったようです。その後少しずつレベルが上がるにつれ、試合のチャンスも増え、何よりもラグビーを優先するようになりました。小学校(日本人学校の土曜学校)の卒業式も試合を優先して欠席し、帰国間際に家を引き払ってからもホテルから試合に行きました。思えばその頃から「ラグビーの虜」になっていたようです。

高校では最初からラグビーをすると決めていました。幸か不幸か人数がギリギリだったおかげで、1年生のときから試合に出ることができ、練習はしんどかったけれど、充実した時間を過ごしてきました。現在は合同チームになり、移動は大変になりましたが、たくさんの練習試合ができる、良い環境だと思います。

私はラグビーのルールに疎く、応援に行っても何が起こったのかわからないことが多いですが、何度も応援に行ったり、テレビの試合を観ながら息子に解説してもらったりして、少しずつわかるようになって来ました。選手と保護者のみなさん、どうぞ一緒にラグビーの魅力にとりつかれてみませんか？

以上